



2018年10月20日

各 位

会社名 株式会社 マルマエ  
代表者名 代表取締役社長 前田 俊一  
(コード番号: 6264 東証第二部)  
問合せ先 取締役管理本部長 藤山 敏久  
(TEL. 0996-64-2900)

### 2018年9月度 月次受注残高についてのお知らせ

当社は、投資家をはじめとするステークホルダーの方々に、より正確に当社を理解していただくために、自社情報のタイムリー・ディスクロージャーを推進しておりますが、その一環として、下記のとおり2018年9月度の月次受注残高を開示いたします。

記

#### 1. 月次受注残高 (百万円未満切捨て)

区分	受注残高	割合	対前月増減率	対前年同月増減率
半導体分野	606	78.2%	△10.2%	6.9%
F P D分野	147	19.0%	△38.7%	△43.0%
その他分野	22	2.8%	△41.8%	293.9%
合計	776	100.0%	△18.6%	△6.6%

#### 2. 月次受注残高の推移 (百万円未満切捨て)

区分	2017/10	2017/11	2017/12	2018/1	2018/2	2018/3
半導体分野	552	655	646	730	774	788
F P D分野	283	213	229	306	311	323
その他分野	3	13	16	19	6	7
合計	839	882	892	1,056	1,092	1,119

区分	2018/4	2018/5	2018/6	2018/7	2018/8	2018/9
半導体分野	814	785	811	741	675	606
F P D分野	362	360	344	322	239	147
その他分野	6	10	8	7	37	22
合計	1,183	1,156	1,165	1,071	953	776

### 3. 月次受注残高の概況

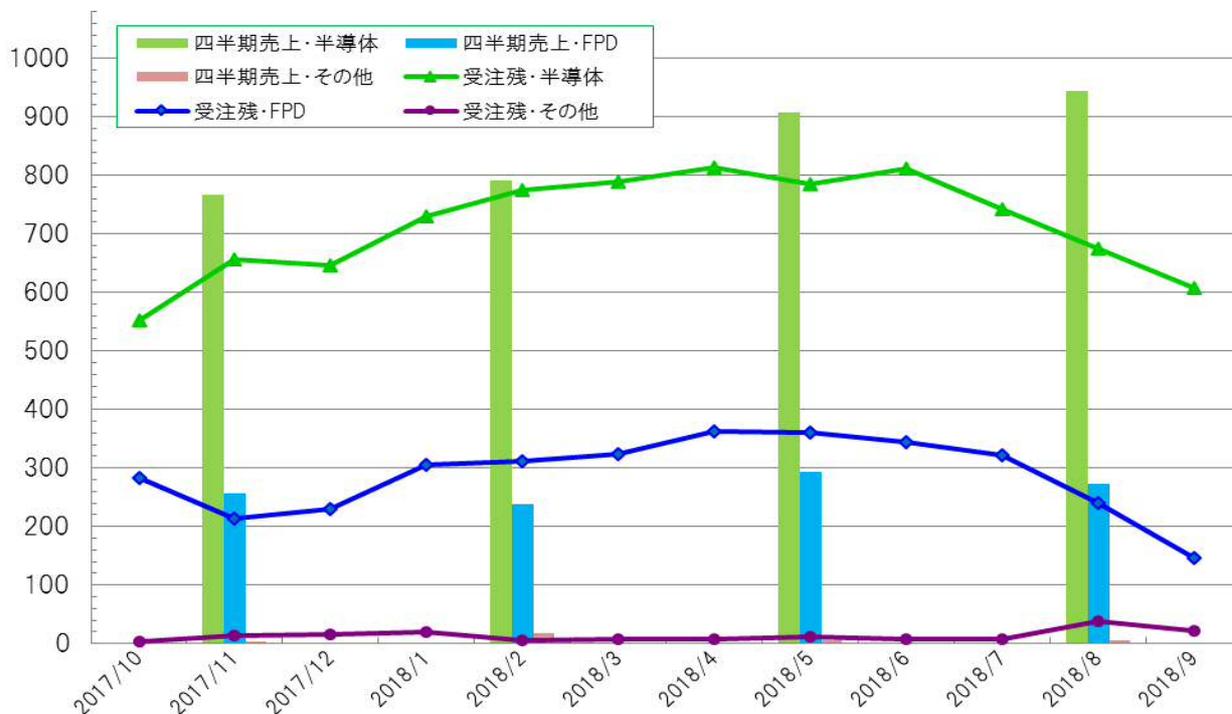
2018年9月末の受注残高は、半導体分野においては、受注に停滞感が出ているなかで出水事業所の稼働が上がり、出荷検収が好調に推移したことから、対前月増減率は10.2%減、対前年同月増減率では6.9%増の606百万円となりました。FPD分野においても、出荷検収は高水準に推移しながらも、中小型有機ELパネル向けを中心に受注が停滞したことから、対前月増減率は38.7%減、対前年同月増減率では43.0%減の147百万円となりました。その他分野においては、少額ながら中国向けで太陽電池製造装置の真空パーツ等を受注しております。これらの結果、2018年9月末の受注残高は、対前月増減率18.6%減、対前年同月増減率6.6%減の776百万円となりました。

今後の見通しにつきましては、半導体分野では、一部デバイスメーカーのDRAM向け投資が先送りされながらも、別メーカーの3D NAND向け投資は拡大しているほか、10月からロジック向けの設備投資が再拡大し始めております。しかしながら、当社の生産力は出水事業所稼働に伴い大きく向上していることから、数ヶ月間は生産量の伸びに対する受注量が不足することで受注残は低下傾向となる可能性があります。このような環境下であります。このような環境下であります。新規受注につながる試作品の引き合いも多く、品種拡大に注力することで受注拡大を図ってまいります。FPD分野では、中小型パネル向けは停滞しながらも大型液晶パネル向けは順調に推移していることから、大型パネル向けに受注品種を転換していく方針ですが、受注が切り替わる数ヶ月間の受注残については停滞傾向となる見通しを持っております。その他分野につきましては、当社生産キャパの空きを活用し、スマートフォン向けの装置部品に若干の伸びが見込まれることと、太陽電池向けの引き合いを受けており、量産品受注に向けた営業活動を行っていく方針です。

以 上

(参考：分野別 過去一年間の四半期売上高と月次受注残高の推移)

(百万円)



注1. 上記受注残高の数値は、速報値であるため、翌月以降に修正される可能性があります。また、監査法人による会計監査を受けておりませんので、本決算の数値とは差異が発生する可能性があります。

2. 当社の受注残数値は、受注別に長短さまざまなリードタイムを持つことから、売上高と直接関連するものではありません。リードタイムの長い案件が増えると受注残が多くなり、リードタイムが短く当社月間生産能力範囲内の受注が増えると受注残が減る傾向となっております。